

～がん体験者6名が発表します～12月4日(月)唐津東高 がん教育公開授業
参加を希望される方は Krebs サポートまでご連絡ください。

<当日の予定>

時間	13:10～14:00	講演会(唐津東高 体育館)
	14:20～15:10	公開授業(1年生6教室)
内容	講演会	「がんの基礎知識を知ろう」 唐津赤十字病院副院長 湯ノ谷 誠二 先生
	公開授業	がん体験者の話

がん体験者6名のプロフィール(五十音順、敬称略)

○草場真智子(乳がん患者会コスモスの会代表)

平成16年、自己触診で乳がんを発見、両方全摘して一命をとりとめた。国立病院機構佐賀病院を拠点に患者会活動を展開、いまや「がんイクオール死」ではないと早期の検診受診と自分を知ることの大切さを説く。71歳。

○古賀 吉光(日本オストミー協会佐賀県支部副支部長)

6年前、唐津市役所職中に膀胱がんと診断され、全摘手術。人口膀胱を造設した。手術の、直腸に傷がつき、一時的に人工肛門を付けたが、結局、復活できず永久ストーマとなった。膀胱 と肛門のダブルオストメイトとして同じ境遇の患者たちの支援活動をしている。本人も愛煙家だった反省を込め、たばこの害とバランスのとれた食事の重要性を話す。66歳。

○寺崎 宗俊(佐賀新聞社客員論説委員)

7年前、大して自覚症状はなかったが、主治医の勧めで血液検査を受け、前立腺がんを発見。当時、珍しかった重粒子線治療を決意、千葉県まで行って放医研で治療して事なきを得た。早期発見、早期治療の大切さを身をもって体験した。69歳。

○宮崎 俊一(元佐賀新聞社東京支社長)

平成23年、定期的な人間ドッグで突然、すい臓がんの宣告を受ける。佐賀大学附属病院で最難度の手術と言われるすい頭・十二指腸摘出手術を行い、成功。日進月歩の医療技術の進展に伴い、本人はもとより家族ら周囲のために情報収集の大切さを話す。66歳。

○森 美穂子(元佐賀市社会教育指導員)

昭和59年子宮がん、卵巣がんを患い、後に多発性骨髄腫を発症したが、奇跡的に生還。今なお各種講演会の講師を務めるなど、「命の大切さを伝える」社会活動を続けている。伊万里市出身。83歳。

○山浦 幸次郎(円蔵寺老人クラブ会員)

平成21年2月、腎臓がんとなり右腎臓摘出、同年12月、膀胱に転移、22年前立腺に異常が見つかり、23年7月膀胱がんが再発、現在、前立腺がんの監視療養中。標準治療のかたわら独自の体操、健康法を編み出し、4度のがんを克服。「あと20年生きて人生100年を実現する」と公言、「生きる意欲の大切さ」を説く。77歳。

がんサロン情報など、皆さまからの投稿をお待ちしています。がんサロンだよりは2カ月に1回発行しています。疑問、質問、相談などお気軽にお問い合わせください。

NPO法人 Krebs サポート 事務局 鶴田 憲司

Tel/0952-23-8231 Fax0952-23-8216 mobile/090-5383-9007

Email/npokrebs@yahoo.co.jp URL/http://www.saga-ganjouhou.org